

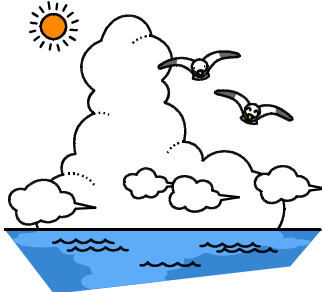
北農校長通信

校長通信（職員向け）

第 44 号

平成 29. 8. 29 発行者 喜屋武 勝

夏休みも終わり、二学期（全日制）、前期後半開始（定時制）



夏休みも終わり、二学期（全日制）、前期後半（定時制）が始まる。全日は 9 月 1 日から、定時制は 8 月 28 日からのスタートだ。生徒の様子はどうか？変化はないだろうか？一人一人に声をかけ、よく観察して欲しい。特に長欠・不登校等の対応が必要な生徒にとって、夏休み明けの対応はとても重要だ。丁寧で迅速な対応をお願いしたい。

9 月以降、行事も目白押しだ。「ゆんたく市（全定）9/15」、「前期卒業式（定時）9/27」、「後期開始/転編入許可式（定時）10/5」、「県定通制生活体験発表大会（定時）10/7」、「学園祭（全定）10/8」、「体験入学（全日）10/20」、「県高校新人体育大会 10/28」、「学校農業クラブ全国大会（全定）10/24」、「定通制秋季大会（定時）11/3」、「県産業教育フェア（全定）11/17」、「校内マラソン（全日）12/1」、「生産物即売会（全定）12/9」・・・主なものでもかなりある。各行事の趣旨をしっかりと押さえ、目的が達成できるように取り組んで欲しい。

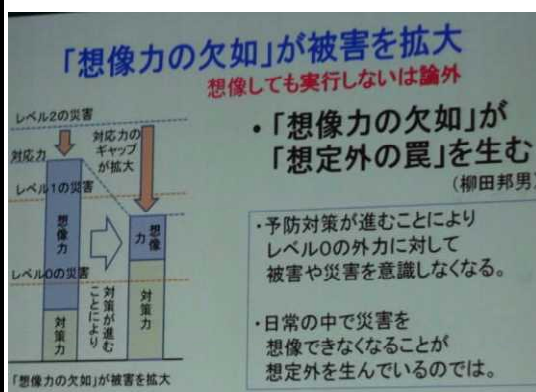
また、一学期の反省を踏まえ、明確になった課題については対策を講じ、組織的に対応できるように提案して欲しい（反省会議がただの反省にならないように。）

また、進路の決定についても、大事な時期である。関係部署が連携し充実した取組をお願いしたい。

全国高等学校 PTA 連合会全国大会（静岡大会）



去った 8 月 23 日～ 25 日の日程で「全国高等学校 PTA 連合会全国大会」が静岡県で開催された。全国から 9500 人、沖縄からは 230 名の参加であった。本校からは、私と、総務部長 比嘉秀樹さん、広報部長 玉城泉さん、母親部長 亀島致絵子さん、母親部 比嘉順子さんの 5 名で参加した。静岡空港からホテルまで 70 km、ホテルからメイン会場まで 50 km、私の参加した分科会はホテルから 95 km 離れていた。帰りは、羽田空港からの帰りで、220 km の大移動であった。とにかく移動の長い大会であった。



私は特別第一分科会「減災教育・防災教育」に参加した。静岡大学の岩田教授の基調講演で印象的だったのは、「これまでの震災の教訓が生かされていない」「減災という言葉で逃げている」「あくまでも防災」「創造力の欠如が被害を拡大させる」、「想像しても実行しないのは論外」という言葉であった。今後の教育活動に生かしたい。

写真：第一分科会のプレゼンから

教諭「脳みそ使え」

沖縄タイムス
8月24日

石垣の小学校 複数の小1児童に

【石垣】石垣市内の小学校で1年生担任の女性教諭が「赤ちゃん」「脳みそ使

え」など複数の児童に暴言を発していたことが23日分かった。教諭はかきをしたという児童からは「先生に無理やり引きずられた」などと体罰を疑わせるような証言もあり、一部保護者が法務局に訴える動きもある。

校長は取材に対し暴言の事実を認め、「子どもたちの尊厳を傷つけ、恐怖心を与えている。児童や保護者の苦しみを考えると大変申し訳ない」と謝罪した。24日に保護者説明会を開く。

市教委によると6月末、保護者から給食時間内に完食できなかった児童が教室外に立たされて食べさせられたと相談があったほか、7月以降も電話や手紙で「子どもが担任のことで悩んでいる」などの訴えが複数寄せられていた。

暴言は、学校に行きたくない児童がいるのを不審に思った保護者が来校し「1-on-1で教諭とのやり取りを録音した」として録音

テープに行きたいと申し出た児童に「漏れる？ いやお漏らす？ …幼稚園生ー」など強い口調で責める声も記録されている。

市教委の担当者は「入学したばかりの1年生はまだ発達段階で、畏懼させるような言葉は不適切。余小中学校で発達段階に即した丁寧な指導対応を促すよう呼び掛けたい」と話した。

中1の生徒へ「飛び降りろ」

福島の中学 男性教諭

福島県双葉町立双葉中学校で、50代男性教諭が担任する1年生の男子生徒に「ぐらぐら女から飛び降りろ」と発言したと、別の生徒の保護者が町教育委員会に訴えていたことが23日分かった。学校によると、教諭は同日夜に開いた保護者説明会を「こつこつ事態を招き申し訳ない」と謝罪した。学校は2学期から担任を交代される。

「生徒の人権を尊重して生徒指導を行う」それにつきると考える。我々が自身の日頃の言動を振り返ることができているかが大事。児童・生徒は教師に対して絶対的に弱い立場である。

生徒に発した言葉や行動が、そのまま保護者の前でできるかを考えれば良い

気をつけたい、夏休み明けの生徒の変化

8月23日の琉球新報の記事↓

「防ごう、夏休み明けの自殺 各地に広がる子ども支援」

琉球新報2017年8月20日

夏休み明けに子どもの自殺が急増する問題を巡り、対策に取り組む動きが各地に広がっている。いじめや友人関係などに悩み、新学期の登校がづらい子の気持ちに「少しでも寄り添いたい」と各地の団体は電話やネットでの相談態勢を強化したり、施設を開放して居場所づくりをしたりするなど、力を入れる。

きっかけは、2015年に内閣府が発表したデータ。1972～2013年の18歳以下の自殺者数を日付別に分けたところ、多くの地域で新学期が始まる日だった9月1日の前後が最多で、春休みや5月の連休の後も多いことが判明した。

内閣府によると昭和47～平成25年の42年間で、18歳以下の子供の自殺は18048人にもおよぶ。年間430名近くの子供が自ら命を絶っていることになる。

自殺した日を365日別に分析したところ、過去42年間で9月1日が計131人と突出して多く、9月2日も計94人、8月31日も計92人と多かった。

平成26年度自殺対策白書では、子供の自殺原因は家庭生活のほか、学校生活に起因するものが多いとされ、長期の休み明け直後は子供に「大きなプレッシャーや精神的動揺が生じやすい」と指摘している。

先生方には、夏休み明けの生徒の変化を見逃さないように一人一人に声かけや面談等をお願いしたい。特に長欠・不登校等の指導・支援等を行ってきた生徒についてはしっかりと目配りをして欲しい。

気になる言動や様子があれば、各部連携し丁寧かつ迅速に対応して欲しい。

0

0

0

0